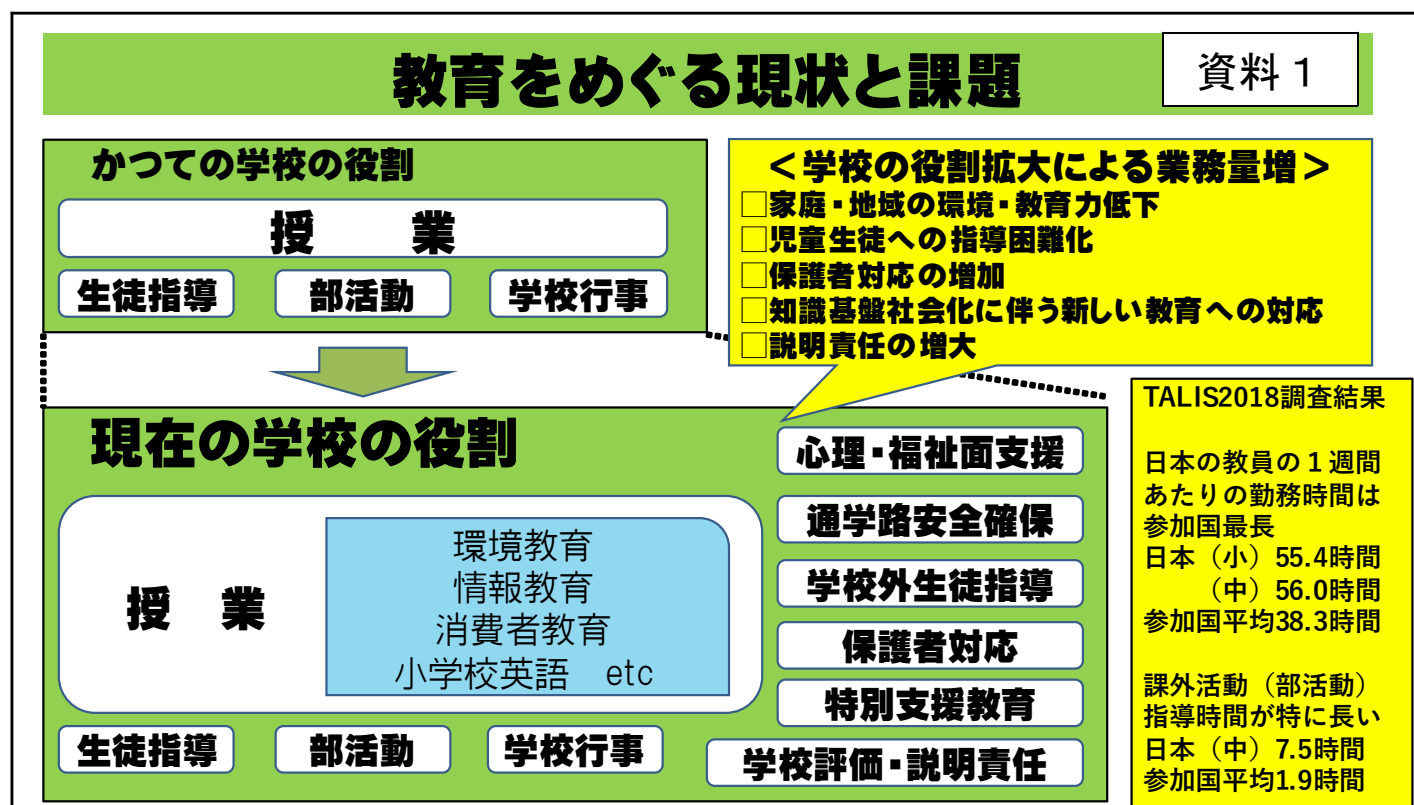


学校運営協議会だより

文責 CSコーディネーター中村

教員の働く環境が厳しい状況であることは、様々な報道で目にします。そこで、学校運営協議会だよりNO5では、「教育をめぐる現状と課題」について解説したいと思います。

下の図、文部科学省 総合教育施策局 地域学習推進課 地域学校協働活動推進室 室長 岡貴子氏により「教育をめぐる現状と課題」として示された資料1を使って説明したいと思います。



現在の学校は、環境教育・情報教育・消費者教育そして小学校英語などにより、新たな価値観、様々なニーズに対応できる力を育むことが求められています。また、学校評価により学校の経営状況を、地域住民・保護者に公表することが義務づけられ説明責任・結果責任も求められています。一方教師は、学校内外生徒指導（いじめや不登校、スマホ利用によるトラブル）、保護者の学校に対するニーズの多様化、特別支援教育など様々な課題への対応により多忙を極めており、日本の教員の1週間あたりの勤務時間は世界（先進国）に比べ最長となっています。特に中学校は顕著であり、部活動の指導がその原因の一つと考えられています。

一方、教員志望者は毎年減少し、道内においても、1学期始業式に教員が未配置となる学校もあり、教員不足は日本全国の深刻な問題になっています。しかし、どんな状況であっても質の高い教育を子どもたちに提供しなければなりません。そのためにも「社会に開かれた教育課程」の実現が不可欠とされています。

「社会に開かれた教育課程」は、裏面資料2（平成28年中央教育審議会次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ）で紹介させていただきます。



「社会に開かれた教育課程」と3つのポイント

社会に開かれた教育課程（連携と協働）

資料 2

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力は何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施にあたって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉ざさずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

社会に開かれた教育課程の3つのポイントを紹介します。

- ①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有します。
- ②これからの社会を創り出していく子ども達に必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成します。
- ③地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現します。

次の話題は全国学力・学習状況調査です。また、これに関連して津田梅子さんを紹介します

全国学力・学習状況調査は、毎年小学校6年生・中学校3年生を対象に実施しています。

- 目的 □全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策のその成果と課題を検証しその改善を図ります。
□学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
□そのような取組を通じて、教育に関する持続的な検証改善サイクルを確立します。
- 公表 ■全国の状況を分析した結果が公表されます。文部科学省HPや新聞等

津田梅子さんを紹介します

先日全国の中学3年生を対象に行った全国学力学習状況調査質問紙の結果が公表されました。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか？」という設問に全国の小学生84%中学生76%が肯定的な回答になりました。

そこで、令和6年の紙幣改定で新五千円札にその肖像画に使用された津田梅子さんを紹介します。

11年間学ばずに、アメリカから、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

から、梅子さんは、アメリカで

ニュース

津田梅子さんの父親津田仙の直筆の書と思われる扁額(へんがく)が、岩内郷土館に寄贈されたという記事が、北海道新聞から出ていました。

津田仙さんは、開拓使に勤務時に、梅子さんの留学を応募しました。

彼女が、帰国後も先進知識を学ぶために海外の大学に再度留学しました。そして、日本女性が自立するには専門的な知識を身に着ける教育が欠かせないと考え、これまで蓄えた知識をいかし、女子教育への気運が高まった明治33年東京に「女子英学塾」(津田塾大学)を開きました。学生たちに「あらゆることに能力を発揮し、自立した女性」である事を訴え続けた津田梅子さんは、日本女子教育の先駆者として残っています。

「社会をよりよくするために」そう心に決め努力をした、津田梅子さんのような先人の生き方に触れる機会を、学校・地域・関係機関が連携してつくっていかねばと考えています。

次回CSだよりは、「学校の働き方改革」を紹介したいと思います。